

めっかりもうさん！

種子島農業普及だより

編集発行 熊毛支庁農林水産部農政普及課 (年3回発行)

西之表市西之表7590(TEL(0997)22-0053,22-0742/FAX22-1729)

「サツマイモ基腐病」の対策について

近年、種子島ではサツマイモ基腐病による茎葉の立枯症状やいもの腐敗が発生し、さらに被害面積の拡大が懸念されることから、次作に向けた収穫期以降の対策を紹介します。

1 種子島での発生状況

(1) 令和2年基腐病発生ほ場 (a, 件)

西之表市	中種子町	南種子町	合計
面積 件数	面積 件数	面積 件数	面積 件数
488 (19)	222 (8)	30 (1)	740 (28)

注1) 農政普及課が確認した、ほ場のみ(8/17現在)

注2) 数値は、さつまいも全体(青果用, 原料用)

(2) 基腐病被害

【生育期】

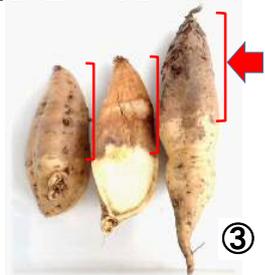


①: 滞水しやすい外周部や凹地で発生



②: 株元から黒変, 後に株全体が枯死

【被害いも】



③: なり口から黒変・乾腐(赤い矢印部分), 黒斑病と同じ腐敗臭



④: 掘り取り約2週間後(室温貯蔵)の被害いも。なり口から黒変し陥没

2 被害軽減のポイント

(1) 収穫期

- 発病ほ場は可能な限り収穫を早める。
- 株元が黒い株や腐敗・萌芽いもは、直ちにほ場外に持ち出す。
- 青果用を貯蔵する場合、1ヶ月程度貯蔵し、被害いもを選別後に出荷する。
- 病原菌は、つるやいもに残るため、ロータリーや収穫機等に付着した残さは、こまめに除去する。また、種いもは病害未発生ほ場から採取する。

(2) 本ぼの準備

- 残さは伝染源となるため、収穫後、直ちに複数回耕うんを行い、分解を促進する。
- 多発ほ場は、さつまいも以外の作物へ転換し、病原菌の密度低下を図る。
- 新たに借地で作付けする場合、前作がさつまいもであれば発生状況等を確認する。

(3) 育苗期

- 育苗床の土壌消毒や苗消毒を徹底する。前年度に苗床で発生があった場合は前作の未発生ほ場に切り替える。
- 青果用はバイオ苗を基本とし、原料用では定期的にバイオ苗を導入し健全種いもを確保する。
- 種いもは伏せ込み前に病害いもや傷いもは取り除き、健全ないもだけを使用する。

被害の拡大を防ぐため、本ぼや苗床をこまめに見まわり、早期発見に努めましょう。

令和2年度かごしまブランドの 優良農家の表彰者が決まりました！

熊毛地域の農産物のブランド確立を図るためには、生産者自らが産地課題の解決に取り組み、産地基盤の強化を行う必要があります。

この表彰は、園芸品目のブランド確立に取り組み、優秀な成績を上げた生産者に贈られます。

熊毛地域のかごしまブランド品目の「かごしまのレザーリーフファン」生産者を種子島島内の各市町から1名ずつ、「かごしまのたんかん」生産者を屋久島町で3名、かごしまブランド候補品目のスナップえんどう生産者を種子島島内の各市町から1名ずつ表彰しました。

熊毛地域が誇るブランド商品の生産を今後も引き続きよろしく申し上げます！



ばれいしょのそうか病対策（土壌改良）

土壌診断により、我が家の畑のpHを確認し、適正な土壌改良を行い、そうか病発生を抑えましょう！

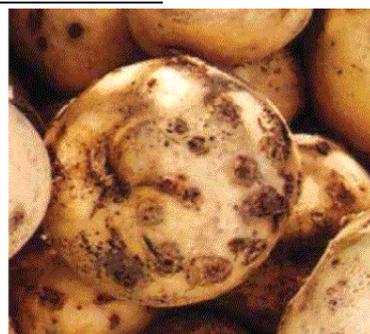
1 ばれいしょに対するそうか病発生と、カルシウムの補給効果

- (1) ばれいしょでは土壌pHがアルカリ性に傾くとそうか病が発生する恐れがあります。
- (2) 茎葉の繁茂や根の伸長肥大には、カルシウム(Ca)は必要です。

★ポイント ⇒ pHを上げずにカルシウムを補給すること

2 対策

- (1) 土壌pHが低い場合は、目標pH5.0とし苦土石灰を施用しましょう！
- (2) 土壌pHが高い場合は、硫酸カルシウム(畑のカルシウム、エスカル等)を施用しましょう！



そうか病の症状

農薬ローテーションにRACコードを利用しよう

- RACコードとは
 - ・ 作用点や作用機構から、有効成分を分類したコードです。
(世界農薬工業連盟)
 - ・ 農薬連用による耐性・抵抗性獲得の防止・減少に活用できます。
 - ・ IRAC(殺虫剤), FRAC(殺菌剤), HRAC(除草剤)があります。
 - ・ 農薬ローテーションには、必ず違うコードの農薬を使いましょう。

●農薬保管庫で分類しよう



- 農薬散布記録や手帳等にRACコードを記入し、ローテーション散布の参考にしよう。
- また、RACコードはインターネット等で分かりますが、不明な場合は農政普及課へ問い合わせして下さい。

果樹の鳥害防止対策を実践しよう！

本年の1～2月には、収穫期を迎えたポンカン・タンカン等の柑橘類が、ヒヨドリ、カラス、メジロ等の加害を受けました。集中的に加害を受けたほ場では、収穫を断念された生産者もいました。果実を鳥の被害から守る確実な方法には、樹または園をネット(網)で覆うか、袋で果実を1果ごとに包んで物理的に遮断することが有効です。

ネットの被覆方法は、島内では下記のように、収穫を迎えた樹ごとにネット被覆したり、幼木園では木柱を立て簡易な平張りのネット被覆が行われています。また、国が開発したダンポールを利用した防鳥網の簡易設置ができる園もありますので参考して下さい(右記QRコード)。



農林水産省 鳥獣害対策HP



樹ごとの防鳥ネット被覆(右樹)



簡易な平張りネット被覆

ミカンコミバエの侵入警戒強化中です！

ミカンコミバエは、果実や果菜類を食害して腐敗・落果させる害虫で、生息域は東アジアや東南アジアです。今年、種子島で46年ぶりに誘殺トラップで確認され、県内各地でも飛来確認が相次いでいます。本種に寄生された植物は、植物防疫法により国内移動が規制されることから、侵入警戒対策を強化しています。



ミカンコミバエ雌成虫

【体長】

約7mm

【主な寄主植物】

タンカン、マンゴー、スモモ、パッションフルーツ、バナナ、パパイヤ、バンジロウ等の果実類や、トマト、ナス、ピーマン等の果菜類やヤマモモ、イヌビワ、オオイタビなどの野生植物など約270種とされています。



ミバエ調査用トラップ

【侵入調査方法：トラップ調査】

左の写真のような調査用トラップを島内各地に設置しています。ミバエ類雄成虫を「におい」でトラップ容器内に誘い込んで、殺虫して捕獲する仕組みです。

トラップには常設と臨時設置されたものがあります。現在はトラップ数を大幅に増やして警戒を強めています。



テックス板

テックス板を利用した対策

テックス板は、5×5cmの木片に、ミカンコミバエの雄成虫をおびき寄せる化学成分と殺虫剤を染み込ませたものです（素手で触らないでください！）。

テックス板に触れたミカンコミバエの雄は、染み込んでいる殺虫剤の効果で死亡します。雄が減ると雌との交尾機会が減り、果実への産卵が抑制されて、個体数が減っていきます。このように、テックス板は、ミカンコミバエの交尾抑制で根絶を図るために使用されます。

※ 島内各地に設置されていますので、触らないようにご協力よろしくお願いします。